

地域の居場所「まちのひろば」創出に関するこれまでの個別具体的な取組について ①

1 まちのひろば WAプロジェクト

(1) 概要

「まちのひろば」の概念と3つの「わ」（和む・対話・輪っか）に共感する人々と協働しながら、「まちのひろば」を見える化し、広げていくプロジェクト登録された「まちのひろば」は「つながっど KAWASAKI」にて掲載するとともに、SNS でも紹介することで、市民へ素敵な「まちのひろば」の好事例を発信している。



(2) 現状・実績

登録団体 57 団体 (2022/8/1 現在)

(3) 効果

- ・市内のまちのひろばがリスト化され、自分が参加したいと思う居場所を探す一助となる。
- ・まちのひろば実践者にとって、行政の広報等により自分の活動の後押しの一助となる。



(4) 課題・今後に向けて

- ・参加団体から「メリットがない」と言われ、賛同に至らないケースが多い。
- ・のれんの視覚的な効果が薄く、目立ちにくい。
- ・件数がなかなか伸びない（職員が働きかけに行っているのが現状、必ずしも賛同する訳ではない）
- ・プロジェクト参加団体間の連携が生まれにくい。

2 各種イベントブースでの広報啓発

(1) 概要

「まちのひろば」や「コミュニティ施策の基本的考え方」の周知・広報を目的に、市内で行われる多種多様なイベント（行政・市民主催問わず）に、ブース出展し、「希望のシナリオ塗り絵」、「創発ゲーム」、「地域のつながりについて考えてみよう」等のワークショップや、「まちのひろば」出張相談、アンケートの実施、啓発冊子等の配布を不定期に行っている。

(2) 現状・実績

18 回実施 (2022/8/1 現在)

(3) 効果

- ・関連するイベントに出展することで、「まちのひろば」等に関心の高い市民に対してアプローチすることが可能。
- ・「まちのひろば」相談窓口や「WA プロジェクト」の賛同につながった。



(4) 課題・今後に向けて

- ・ブースに立ち寄った際に気軽に、地域の「つながり」について考えることができるワークショップを試行したが、より魅力的な啓発に向けてブラッシュアップが必要

3 SNS (YouTube・Instagram) による広報

(1) 概要

分かりやすい広報や若い世代への啓発を行うことを目的に、YouTube 及び Instagram を活用した情報発信している。具体的な「まちのひろば」の好事例のみならず、「まちのひろば」の創出につながるよう、「つながり」の大切さも併せてお伝えしている。

(2) 現状・実績

ア YouTube「川崎市コミュニティチャンネル」

わかりやすさ！楽しさ！手作りの温かさ！をコンセプトに運用。素敵なまちのひろば紹介やコミュニティ施策用語解説や他部署の施策とも連携した動画等を掲載。

登録者数 414 人 投稿数 89 本 総視聴回数 20,608 回 (2022/8/1 現在)



イ Instagram

若い世代が気軽に「まちのひろば」等に触れることを目的に開設。様々なイベントや地域の素敵な活動の紹介のほか、フォロワー獲得を目的にしたフォトコンテストを定期的実施。

登録者数 364 人 投稿数 110 本 (2022/8/1 現在)



(3) 効果

- ・他部署と連携して動画を作成することで、つながりづくりの大切さを他の施策（地ケアや防災）の観点からも伝えることができた。
- ・施策をわかりやすくお伝えすることができ、視聴者からも高評価を得ている。
- ・登録者の数が増えることで、コミュニティ施策に関心のない層にも一定程度情報を届けることができている。

(4) 課題・今後に向けて

- ・現状で地域ケアや防災といった部署とは連携しているが、さらに他の他部署ともコミュニティを切り口にした連携を推進することが必要である。
- ・より幅広い市民の方々に情報をお伝えするため、更なる登録者の獲得が必要である。
- ・視聴者や登録者に対するリアクションが限定的であるため、視聴者や登録者との一体感が生まれにくい状況となっている。

4 まちのひろばフェス

(1) 概要

「まちのひろば」の普及啓発や機運醸成、地域活動の担い手としての意識醸成、参加者同士の交流を目的にした市民参加型のイベント。年度ごとにテーマや対象者を変えながら実施している。

(2) これまでの結果・実績

ア 2019 年度（3 回実施）

① まちを耕す～地域の居場所「まちのひろば」～

「まちのひろば」の普及啓発のため、幅広く地域コミュニティをテーマにして開催

第 1 部 講演会及びトークセッション

「地域とコミュニティのこれまでとこれから」
(饗庭伸教授×地域活動団体×福田紀彦川崎市長)

第 2 部 「まちのひろば」の開き方（分科会方式）

町内会・自治会 × 地域活動、防災 × マンションコミュニティ、
高齢者 × 地域の輪、若者 × 居場所、自由な発想 × 「まちのひろば」

参加者：計 152 名



第1部トークセッション

② 地域でつながるこども食堂

・講演会「川崎のまちとこども食堂の未来」

(社会活動家、東京大学先端科学技術研究センター 湯浅誠特任教授)

・市内こども食堂の紹介

・出前ゼミ：～こども食堂のあれこれ～

(聞き手：こどもの未来サポートオフィス 米田佐知子代表)

参加者：計 82 名



参加者全員での記念写真

③ みんなでつくる「こどもが安心できる場所」

・講演会①

・こども食堂に対する想い（菜の花ダイニング 有井幸弘 副代表）

・ひとにやさしくよりそう（とどろき地域包括支援センター 北川 大 センター長）

・市内こども食堂ポスターセッション

・講演会②

・居場所のちから～こどもたちのありのままを受け止めて～

(認定NPO法人フリースペースたまりば 西野博之 理事長)

参加者：計 92 名



北川氏による講演会

イ 2020 年度

まちのひろばフェス 2020 これからのコミュニティ活動 with 新しい生活様式～

コロナ禍にけるこれからのコミュニティ活動をテーマにし来場とオンラインを併用して開催

第 1 部 講演会 これからのコミュニティ活動～with コロナ、after コロナ～

(NPO 法人 CR ファクトリー 呉哲煥 代表理事)

第 2 部 トークセッション「新しい生活様式を取り入れた活動のあり方」について

(NPO 法人 CR ファクトリー 呉哲煥/Vege&ArtFes 中村ふみよ

/オーベルグランディオ川崎自治会/川崎市職員プロジェクトチーム)

参加者：来場者 23 名、Zoom 参加 20 名 YouTube 視聴回数 750 回



Zoom でのトークセッションの様子



オンラインを併用した会場の様子

ウ 2021 年度

まちのひろばフェス 2021

「子育て」をテーマに身近なつながりの大切さを感じていただくため、来場とオンラインを併用した地域活動体験型のフェスを開催

第 1 部 各団体による実演+活動トーク

(にこにこあおむし人形劇団/多摩区おはなしボランティアさくら/川崎パパ塾/RelilyBaby)

第 2 部 ソーシャルデザインセンター活動者トークセッション (幸区・多摩区)

第 3 部 まちのひろばフォトコンテスト 2021 会場投票及び結果発表

参加者：来場者 62 名、ZOOM 参加 2 名、YouTube 視聴回数 560 回



親子で地域活動を体験



フォトコンの結果発表



SDC トークセッション

(3) 効果

- ・「まちのひろば」や「コミュニティ施策の基本的考え方」の理解促進や機運醸成の一助となった。
- ・課題となっていることをテーマにし、活動実践者の方々と共有することで、課題解決に向けた方向性を共有することができた。(コロナ禍におけるコミュニティ活動)

(4) 課題・今後に向けて

- ・準備の費用や時間などに多くのコストを割く一方で、参加者が限定的である。
- ・他の類似イベントが複数ある中で更なる連携が求められる。

5 おうちでつながるまちのひろば

(1) 概要

コロナ禍において、「まちのひろば」づくりが停滞しないように、新たな取組の情報提供を目的に、オンラインを中心とした「まちのひろば」を随時更新し紹介。併せて、職員が体験取材した『まちのひろば探検隊 with 新しい生活様式』もリポート形式で掲載。

(2) 現状・実績

14件掲載

(3) 効果

- ・通常の市HPビュー数よりも多くのアクセスがあったことから、コロナ禍における市民ニーズに一定程度応えることができた。



6 まちのひろば」づくり相談窓口

(1) 概要

新たに「まちのひろば」を創出したいと考えている方などの提案実現に向けたワンストップ相談の窓口を実施。市民の方の様々な想いやアイデアを実現するため、協働・連携推進課が窓口となり、庁内外の様々な調整を行っている。

(2) 現状・実績

38件の相談



(3) 効果

- ・相談窓口を経ていくつかの「まちのひろば」が誕生した。
 - ・本事業の試行実施を経たことにより、相談者の多くが自らの提案を実現する能力があることからとの実感を得たことから、構想づくりや相談窓口を案内するような「まちのひろばひらきかた手帖」の作成につながった。
- ### (4) 課題・今後に向けて
- ・相談を受ける職員の個人的な興味や知見に左右される部分が多く、専門的な相談内容等は一定程度所管部署の知見としてまとめ、対応の質を保っていく必要がある。
 - ・「活動場所を探している」という相談が多く、公共施設や、他のまちのひろばへとの連携実施等を提案するも、相談者の希望ニーズに合わないこともあり、根本的な解決には至らないケースが多い。
 - ・空き家マッチング事業など他局が実施する事業との更なる連携が求められる。

7 公共施設の地域化

(1) 概要

身近な公共施設が地域の皆様にとってより魅力的なものとなるよう、柔軟な利活用な方法や地域ニーズの掘り起こし、施設間の連携等を推進することで、新たな「まちのひろば」の創出を図る取組。

(2) 現状・実績

<2019年度>・『～ガイドライン策定に向けた基本的視点～』策定

<2020年度>・関係施設所管課とのワーキング及びヒアリングの実施

・『公共施設の地域化（地域による利活用の促進）庁内向けガイドライン』策定

<2021年度>・上記ガイドライン推進に向けた関係施設所管課とのワーキングを継続

・「意外と知らない公共施設の柔軟な使い方ガイド」策定

「市政だより」での好事例の毎月の発信



(3) 効果

- ・「ガイドライン」を策定により、職員が公共施設をより柔軟に運用や活用をする際の一助となっており、新たな「まちのひろば」となる事例も生まれている。
- ・「意外と知らない公共施設の柔軟な使い方ガイド」については市民の方から「わかりやすい」との声をいただいております好評である。

(4) 課題・今後に向けて

- ・柔軟な利活用を行うことで、適正な管理を行うことが難しくなるとの声も現場の職員から上がっており、進め方に工夫が必要である。
- ・市民ニーズを引き出すためにも、好事例をさらに発信していく必要がある。

8 まちのひろばひらきかた手帖

(1) 概要

「まちのひろば」の普及啓発と、「まちのひろば」を实践してみようと思う方向けの冊子。

(2) 現状・実績

2,000部作製（各公共施設へ配架、各種関連イベントにて配布）

(3) 効果と課題

まちのひろばの構想をまとめるためのヒントや、各所手続きの際の行政の相談先の案内を掲載しており、地域活動の入り口として分かりやすいという声がある一方で、「実践するには物足りない」との声もある。

